



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

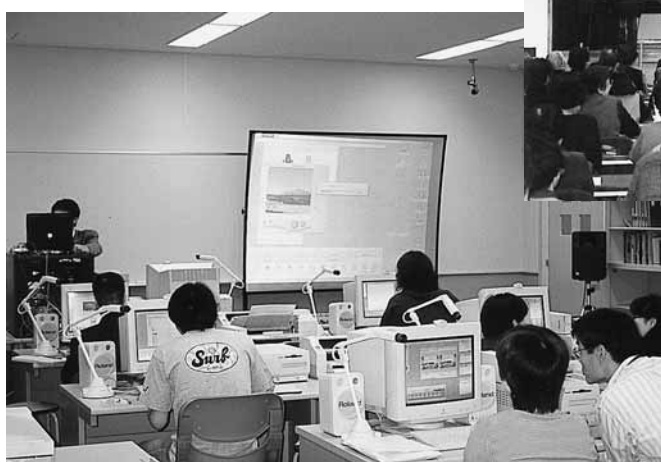
新しい自分との 出会いや発見がきっとある



北を拓く文化講演シリーズ
「国際文化交流セミナー(2)」



生きがいきり生涯学習促進事業
(釧路会場)



地域視聴覚教材製作研修講座
(札幌大学にて)

目次

平成13年度事業計画の概要..... 2	私の生涯学習..... 6
「ほっかいどう生涯学習ネットワーク カレッジ事業」について..... 3	情報の広場「ちえりあ」..... 6
平成12年度生涯学習実践記録・ 研究論文入選者名簿、審査所感、 最優秀作品..... 4	編集後記..... 6

平成13年度 事業計画の概要

3月16日(金)に開催された平成12年度第2回役員会・評議員会・理事会において平成13年度の事業計画が承認されました。事業の概要は次のとおりです。

事業名	内 容
1. 生きがいづくり生涯学習促進事業 「人生を共に豊かに過ごすために」 (継続)	期 間 5月～12月 会 場 全道14教育局管内毎1会場 参加対象 一般道民 人 員 1会場100人 延べ1,400人 (聴力障害者の方々のために、手話通訳者を配置する。)
2. 広報紙発行 (継続)	年4回発行 1回 1,400部
3. 青少年自然体験活動 指導者養成講座 (継続)	期 日 前期 8月～9月(3泊4日) 後期 1月～2月(3泊4日) 会 場 全道 3会場 夏3会場・冬2会場 参加対象 大学生・一般成人で自然体験学習の指導者になりうる人。 人 員 全道212人
4. 生涯学習海外研修 (継続)	期 間 9月下旬～10月上旬 12日間 場 所 欧州(4か国程度) 参加対象 社会教育関係者及びその他の希望者 20人～25人
5. 社会教育関係団体等連絡会議 (継続)	年1回以上開催
6. 生涯学習研究論文等募集 (継続)	募集期間 10月～12月 最優秀作品 1編 優秀作品若干を決定し、広報紙等で発表
7. 特選視聴覚教材鑑賞 (継続)	開催期間 8月、11月(2回) 各期1週間 各日1時間 会 場 かでる2・7 参加対象 一般道民
8. 地域づくり人づくり事業 (継続)	講演会等 ・アドバイザー等研究協議会 期 日 8月(年1回) 場 所 道東(未定) 参加対象: 講演会 一般道民 : 研修会 市町村生涯学習推進アドバイザー
9. 生涯学習ボランティアスタッフ 自主企画運営事業 (新規)	期 日 6月1日～3月31日 活動内容 当協会主催事業の企画運営に当たる 企画事業 11月中旬(かでる会館10周年記念事業に協力する。) 会 場 かでる2・7
10. 文化講演会 (財)北海道教職員厚生会の協力事業 (新規)	期 日 8月7日 会 場 かでる2・7 人 員 200名 参加対象 一般道民
11. ほっかいどう生涯学習ネットワーク カレッジ(道民カレッジ)事業 (新規)	主催講座 北海道キャリア開発放送講座 (遠距離講座) 講座回数 8回 道民カレッジ連携講座 講座回数 約190講座
12. 生涯学習情報資料の展示・提供 (まなびの広場) (継続)	生涯学習情報資料の展示・提供 インターネットを活用し道内の学習機会、指導者、視聴覚教材等の学習 情報の提供する。 ふるさとコーナーの開設 展示会の実施
13. 教材貸出 (継続)	視聴覚教材貸出
14. 自主教材制作 (継続)	教材制作
15. 地域視聴覚教材制作研修講座 (継続)	期 間 9月12日～9月14日 3日間 会 場 札幌大学 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者・視聴覚教材制作に関心のある道民
16. ビデオ映像教材制作専門講座 (継続)	期 間 6月14日～6月16日 3日間 会 場 かでる2・7 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者、企業・民間事業所の広報担当者・ビデオ編集に関心のある道民
17. 教材目録作成 (継続)	視聴覚教材目録(追録版)の配布

を見たり、気分転換に映画館に行ったりしましたが、何より家族単位での行動が多くなりました。噴火前は、父が仕事で帰りが遅かったり、私や弟が部活で遅かったり、食事を家族で囲むことが少なかったのですが、噴火してからは食事はみんな揃って食べていました。そのお陰か会話も増えていきました。その中で一つの大きな出来事がありました。本来であれば学校は定期的にはすでに新学期が始まっているはずであることを気にした父が、中学二年になる弟を室蘭の中学校に入れた方がいいのではないかと仰いだしたのです。母と私は反対でした。いつ始まるかわからない虹田中学校よりも一時転入という形で別の学校へ行った方がいいのでは、という父の考えも分かんなくはなかったのですが、その時の不安な状況で新しい環境に飛び込んで行かなければならない弟の事を考えるとやりきれない気持ちでした。結局は偶然弟の所属している野球部の仲の良い先輩も一時転入で同じ中学校に入学するという事で納得はしましたが、弟は食事も喉を通らなくなるほど不安と緊張で一杯だったようです。

私の方は、学校が始まる目処は立っていませんでしたが、部活をスタートさせるため、バレー部顧問の先生が部員を一か所に集め、部員10名で生活をする事になりました。

場所は旭町児童館という30人ほどの避難所で、最初は知らない人ばかりでどのように接していけば分からず、よそよそしい雰囲気があり、緊張しました。何をしても迷惑がかかるんじゃないかという気持ちがあり、いつもびくびく生活していました。しかし、私達バレー部員が少しずつ避難所の生活に慣れてきた頃私達にできることはないかと部員みんなで話し合い、まずは避難所のトイレ、玄関、大広間などの掃除をすることにしました。普段、合宿などでやり慣

れていたことだったので何の抵抗もなく毎朝分担した仕事をこなしていきました。これがつきかたとなったのか、次第に避難所の方々と仲良くなることができました。掃除に加え、運動不足の方々に朝、軽いストレッチや肩もみも行いました。この二つは大好評で、私がいも肩もみをしていたおばあちゃんからは「うちの孫も同じくらい年ののにねえ」と会話がはずみました。

この避難所では、一つの大家族になれたと思います。私達バレー部の大会があった時、朝、朝行つてきます」と挨拶すると、「頑張つて」と拍手が起こり、賞状を持って報告すると皆で大喜びしてくれました。実際私達も避難所の方々に少しでも明るい話題を提供できればと必死でした。私達は何度かこの避難所生活の事でテレビ局の方々に取り上げられたことがあります。その時も、みんなテレビの前に集合して楽しみにして待っていてくれたり、時には夜遅くまでいろいろな相談にのってもらったこともありました。そんなささいな温かさが家族から離れ、避難所生活をしている私にとつては嬉しいものでした。

噴火も次第に落ち着きを見せ、徐々に避難指示も解除になり家に戻る人が増え、私が肩もみをしていたおばあちゃんも家に帰る日が来ました。本当は嬉しい事で喜びたい気持ちもありましたが、正直寂しくて送別会をやった時、笑顔で送るんだと思つていましたが、どつしても涙を止めることができずおばあちゃんを困らせてしまつたと思います。それから、旭町児童館は人が少なくなってきたということで閉鎖と決まり、私達は次の避難所へと移動しなければならなくなりました。せつかく本当に家



族のように楽しく毎日を通り過ぎてくれた避難所だったので正直次の避難所に行くのは嫌でした。

次の避難所は花和小学校という所で、ここでは運動会に参加させてもらいました。私も父母の方々も真っ赤に日焼けしてはじやぎました。私達からもなにかできることはないかと思い、前に学校祭で踊つたことのあつたよさこいを朝五時に起きて練習してみなさんに披露しました。すごく緊張しましたが、ものすごい拍手をもらい驚きと感激で一杯でした。

私は噴火中に「母の日」というので母に手紙を書いたことがありました。前ならプレゼントを買つて終わりだったのですが、その時、私は感謝の気持ちを表わさずにはいられなくなりました。少し照れくさかつたけれどこんな気持ちになれて良かったと思います。これも噴火によつて離れ離れになり、今まで考えたことになつた「家族・母」という大切な存在が大きなものだと分かることができたと思います。

私の通う高校は、仮設校舎で授業をしていました。生徒会長の言葉が思い浮かびます。「有珠山噴火によつて失つたものもたくさんあると思いますが、その分、得たものもたくさんあるのではないのでしょうか。本当にそうだと思います。」

最近では学校の授業の中に強制とまではいなくても「ボランティア」とか「福祉」というのが組み込まれる動きが出てきています。それでは小学生の私と一緒にではないでしょうか。強制されているとまでは言いませんが、「してやっつて」という顔をしてやっつていけば、周りの人も嫌な気持ちになります。これでは全く意味がありません。ボ

ランティアとは人に強制されてやるのではなく、自然に自分自身が思いつく行動なのではないのでしょうか。

有珠山噴火で私自身の避難所生活があらんなにも楽しくなつたのにはボランティアが大きく関係しています。私達は別に避難所の人に良く思われたいから嫌々ボランティアを始めたわけではありません。今のこのような状況だからこそ、周りの人に何ができるのかを自分達で考えた結果だつたのです。そのおかげでたくさんの方々の笑顔と出会え、ボランティアに対し消極的だつた私が、何の迷いもなく人のために何かしたいと思つたきっかけになつたのですから、私の避難所生活は言い換えれば「ボランティア合宿」と言えるのではないのでしょうか。

組織的なボランティアから身近なボランティアとボランティア活動の種類が幅広くなつてきているのが現状だと思います。

しかし、私はその中で、組織的に計画されたボランティアではなく、もつと身近でさりげないボランティアを大切にしていきたいと思います。そして、そのボランティアからさらに大きく関係を広げ大きな輪ができることが一番大切だと思います。

生涯学習とは、自己の充実・啓発のために、自発的に自己にふさわしい方法で行つものだと聞いています。

今回私が体験したことは、まさに自ら考え、自己にふさわしい形で学ぶという生涯学習の理念に添うものだと考えるのではないのでしょうか。

私はこれまで生涯学習という言葉を目にするにはあつても意識したことはありませんでした。しかし、人が生活する中で案外身近に学習機会があることに気付きました。

このことをさらに多くの人が身近に感じ、理解し、行動してくれることが、これからの課題であると思つていました。

私の生涯学習



高松 麗子

昨年十一月、カナダで六日間ホームステイをする機会を得た時、土産にと持参した私の句集「遠天」がとても喜ばれた。

もう五十数年も昔、小学六年の時に先生に誘われて俳句会に出席したのが切っ掛けで今日も作句し続けているのだが、高校生の時芭蕉について研究発表をしたことがある。結婚して間もなく慶応大学の通信教育の国文科に籍を置いたのだが、池田弥三郎教授に芭蕉の連句を学んで、再び芭蕉に興味をもった。卒業論文は「軽みと芭蕉の連句」で、卒業後請われてある俳誌で、この評論を載せたところ、角川の「俳句」に全国の国文学者の名に、私の名が混じっていたのである。幾つかの大学から求められてこの文をコピーして送ったりもしたが、私の芭蕉研究はそれっきりとなった。が、昨年また頼まれて「野ざらし」紀行について、ささ

やかな評論を発表させられた。

三十年ぶりのことであった。

でも作句は、六年生の時以来続けている。句集もこんど出せば三冊目となる。思えば、全道の女性グループの会歌の作詞やら、全国集会での集會宣言の起草、そして全道数十ヶ所での講演にかり出されたのも、この俳句のせいだったかもしれない。

好きだった音楽も、二千数百人埋まった日比谷公会堂でタクトをふるチャンスに撃った。

墨で塗りつぶした英語の教科書時代の私が、カナダでなんとか英語で話せたのも、慶応で学び、地域の子どもたちに英語を教え、テープを聴き、英会話グループの仲間と学び合ってきたからだと思う。

今ふり返ってみると、生涯学習し続けようなど思ったこともなかった私だが、日々新しく生きようと走りつづけて今日まで生きてきた。十数年続けてきた文化連盟の会長やら、教育委員の役割も、何とか無事果したえることが出来ればと思いつつ過ごしている昨今である。



情報の広場

札幌市生涯学習総合センター

ちえりあ

昨年八月に西区宮の沢にオープンした「ちえりあ」は、生涯学習を総合的・体系的に全市的に推進する「生涯学習センター」を中核として、若者の集う「青少年センター」、教職員の研修や教育相談を行う「教育センター」、リサイクルに関する理解啓発を進める「リサイクルプラザ」の複合公共施設です。

都心から西方七・五kmの地下鉄東西線終点駅「宮の沢駅」の周辺地区。生涯学習推進の拠点施設にふさわしく、市民一人ひとりがいきいきと学び、交流することができる場をめざ



しており、各施設へは地下鉄駅から直結した地下通路を設け、アクセス面でも多くの市民が利用しやすい配慮がされております。

編集後記

平成12年度事業も会員はじめ皆様方のご支援により、全事業を順調に終了することができました。

新しい世紀を迎え、当協会としても2001年を来るべき百年を見据え、希望を持って未来を語る年にしたいと考えております。

そのような意味においても生涯学習の充実発展に向け、新たな視点から各種事業への取組みを進めて参りますので、一層のご支援とご協力をお願い致します。